

様式第2号（第9条関係）

会議録

会議の名称	令和5年度第2回ふじみ野市上下水道審議会			
開催日時	令和5年8月29日（火） 開会時刻 午後2時00分 閉会時刻 午後4時00分			
開催場所	市民交流プラザ（フクトピア内）1階 展示ルーム			
出席した者の氏名	役職名	氏名	役職名	氏名
	会長	原田 晴男	市長	高畑 博
	副会長	玉田 修	都市政策部長	山風呂 敏
	委員	岸川 彌生	事務局	北澤 豊
	委員	渋谷 正一	事務局	大塚 昌利
	委員	穴田 義男	事務局	三浦 俊英
	委員	久保田 清	事務局	柳澤 貴史
	委員	大野 千尋	事務局	島田 二郎
	委員	原 義人	事務局	羽鳥 一彦
	委員	安田 孝子	事務局	岡澤 真樹
	委員	野崎 聡美	事務局	門叶 豊
			事務局	藤澤 貴子
			事務局	館野 沙織
会議の議題	(1) 諮問事項について（水道事業及び下水道事業の経営戦略の改定について） (2) 諮問事項について（水道料金の改定について）			
会議の公開又は非公開の別	公開・ <del>非公開</del>			
会議の非公開の理由				
傍聴人の数	0人			
会議の内容	別紙のとおり			
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次第</li> <li>・ ふじみ野市上下水道審議会委員名簿</li> <li>・ ふじみ野市上下水道審議会条例</li> <li>・ ふじみ野市上下水道審議会傍聴要領</li> <li>・ 諮問書（経営戦略の改定）</li> <li>・ 諮問書（水道料金の改定）</li> <li>・ 水道事業の現状とシミュレーションについて</li> <li>・ 下水道事業の現状とシミュレーションについて</li> <li>・ 水道料金について</li> </ul>			
事務局	都市政策部 上下水道課			

議事の確定	確定年月日	令和5年9月6日
	記名押印 又は署名	役職名 会長 原 田 晴 男 ㊟ ※自署の場合は、押印不要です。

別紙  
会議内容

1 開 会

2 諮問

3 市長あいさつ

4 会長あいさつ

5 議 題

【審議】

ア 諮問事項について(水道事業経営戦略の改定について)

○生活の上で一番重要なのは水だと考える。

企業の営業許可などの際に、井戸水を使用する企業に対しては水質検査の結果提示を求めるが、市の水道を使用する企業に対しては市が水質を管理していることが明白であるため、結果の提示を求めない。

しかし、配管等が老朽化し水質に影響が出た場合、市全体の風評被害だけでなく、食中毒など様々なリスクも想定されるため、それらを防ぐためにも、公衆衛生上の設備を担保することは必要であると考えます。

その財源確保のためでもある料金改定だと思うが、水道料金について、どの程度の値上げを想定しているのか。

⇒料金改定にあたっては、収支のギャップを埋めるような形で検討しており、具体的な料金改定については、次回の審議会の際に案をお示しできるよう、シミュレーション作業中である。

○料金回収率について2点ほど。

過去実績を見ると大体95%程度で推移していると思うが、令和2年度と令和4年度だけ10%近く落ちている理由は。

また、今後料金体系を検討していくにあたって、どこを目標に設定していくのか。近隣類似団体の平均を目指すのか、あるいは現状維持を目指すのか。

⇒令和2年度と令和4年度の料金回収率が低い要因は、水道料金の減免を実施した影響である。料金回収率は、供給単価を分子に、給水原価を分母に算出するが、料金の減免を行った場合給水収益が減少するため、料金回収率も減少することとなる。

また、料金改定にあたっての目標について、水道事業は地方公営企業法の定めに基づき、水道使用者からの料金収入によって必要な事業費を賄う独

立採算制であるため、料金回収率の目標は 100%と考えている。  
しかし、あくまで公営企業であるため、水道施設の更新等、事業運営に必要な資金確保を目的とした料金改定が前提となる。

- 水道料金について、近隣と比較するとふじみ野市はかなり低い料金水準であるが、何故このような差があるのか。
- ⇒現行の料金は旧上福岡市において平成 10 年に設定したものであり、旧上福岡市ではその当時から約 25 年間、旧大井町では平成 20 年に合併に伴う料金統合を行った以来約 15 年間変わっていない。約 25 年前の料金体系を維持していることが、他団体と比較した際の差につながっているものと考ええる。

#### イ 諮問事項について（下水道事業経営戦略の改定について）

- 使った水道水を下水に流すことになるので、水道と下水はペアであるという印象がある。水道料金を見直しを実施するとのことだったが、下水道使用料は今回見直しを行わないのか。
- ⇒下水道事業も水道事業同様、財政シミュレーションを実施した。  
今回改定後の計画期間（R6-R15 年度）においては、収支均衡を図ることができる結果となったため、下水道使用料の改定は喫緊で検討すべき課題ではないと判断をした。  
しかし、将来的には下水道使用料の体系についても検討が必要と考えているため、経営戦略の見直しを行うタイミングで都度状況を把握していく。

- ふじみ野市は小さい市であり、普及率も高い。それらの理由から、設備投資やメンテナンスがあまり必要なく、料金が安いと耳にしたことがあるが、どうなのか。
- ⇒本市は面積が小さく、普及率も高いが、それを理由に安価な料金を据え置いているという事実は無い。  
平成 17 年度に旧上福岡市と旧大井町の合併を行い、平成 20 年には旧上福岡市の料金体系に合わせる形で料金統合を行ったが、収入の増加につながるものではなかった。  
施設の老朽化が進んでおり、今後施設更新のための投資が必要となるが、現行の料金のまま必要な工事を行おうとした場合、財源が大幅に不足することとなるため、安全・安心な水道水供給のためにやむを得ず料金改定を検討することとなったものである。

#### ウ 諮問事項について（水道料金の改定について）

- 水道料金について、一律で値上げをする予定なのか。  
水道料金などの支払いは、事業者の場合は経費として算入できるが、家

庭はただ支出が増えるだけである。その点も踏まえての質問だが、家庭系や事業系など差をつけて料金を上げることは検討しているのか。

⇒料金改定については使用者のボリュームゾーン、家庭系・事業系のバランスなども含めたシミュレーションを検討したい。

次回の審議会において料金改定の案を示し、審議をお願いすることとなる。

○現行の料金体系を用いて、他団体の平均まで料金を引き上げた場合どのようになるか示すことは可能か。

今後料金パターンを検討するにあたって、見本としての具対的な数字が出ていないと、どの程度改定するのかなど、検討が難しいと思う。

⇒本日は、水道料金体系の現状のみ示した。次回の審議会において、シミュレーションに基づき、料金改定の案を示す予定である。

他団体平均の水準に近づけた場合の資料提示とのことだったが、料金改定にあたっての着眼点は他団体平均ではなく、水道事業の運営に必要な収益の確保という独立採算制に基づくものであるため、次回の審議会では本市のシミュレーションに基づいた案を示すこととなる。

なお、現在水道事業は料金回収率が100%を下回っており、水を供給すればするほど赤字となる「逆ざや」であることに加え、今後施設の更新に多額の費用も必要となる見込みである。

収入確保の手段として、金融機関等からの借入れを増額することも検討したが、借金を増やすということは、現在の苦しい状況を先延ばしにするだけで、将来世代へ過度な負担を強いることとなる。現在の水道使用者、将来の水道使用者の負担公平性の観点から、やむを得ず料金改定を検討している状況であることについてはご理解いただきたい。

○事務局と同じ意見で、他団体平均について加味するよりも、ふじみ野市が事業を運営する上で必要な資金の確保を目的として資料を示すべきだと思う。

今後検討をしていくにあたってのスケジュールについて共有をお願いしたい。

⇒水道事業・下水道事業の経営戦略改定及び水道料金改定について、12月上旬の答申をお願いしたい。次回、11月上旬の審議会において計画素案・料金改定案を示し、ご審議いただきたい。

○料金改定のことなので、スケジュールの件など部長の考えも伺いたい。

⇒12月上旬までに答申をいただいたうえで、3月議会において料金改定の議案を提出したいと考えている。

○今後具体的な案を示すとのことだが、このタイトなスケジュールでいくつもパターンを示すとなると間に合うのかと心配している。

資料 25 ページにパターンが 5 つ示されているが、例えば評価に「×」がついているものに関しては却下することも出来るのではないか。  
事務局が良いと判断した案のみを絞って提示し、それを審議によってさらに良いものにするのが良いのではないか。

○委員全員異議なし

⇒いくつも案を示すことによって審議が複雑となる可能性もあるため、事務局によって案を絞って示すこととする。

## 6 その他

事務局報告事項

次回審議会の日程について(報告)

## 7 閉会